



# バリアフリー推進レポート



## 広島空港で地元小学生がバリアフリーを体験！

中国運輸局では、共生社会実現のため、学生や社会人を対象としたバリアフリー教室を開催し、「障害の社会モデル」※1、「心のバリアフリー」※2の啓発活動に取り組んでいます。

このたび、広島空港において、車椅子ユーザーを講師に迎え、車椅子やエレベーター付きリムジンバスの体験、講師との対話を通し、日常における障壁を理解したり、自身に何ができるかを考えてもらったりすることを目的に、三原市立本郷西小学校4年生の皆様を対象にバリアフリー教室を行いました。

※1 障害の社会モデル...障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方。

※2 心のバリアフリー...様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。バリアフリー教室は令和2年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。





# 広島空港バリアフリー教室

## 【開催概要】

- 日 時：令和6年6月28日(金) 13:20~15:00
- 場 所：広島空港旅客ターミナルビル2階（広島県三原市本郷町善入寺64-31）
- 主 催：国土交通省中国運輸局
- 参加者：三原市立本郷西小学校4年生 30名
- 内 容：
  - ①講師による講話
  - ②車椅子体験
  - ③バリアフリークイズ
  - ④バリアフリートイレ見学
  - ⑤エレベーター付リムジンバス体験



## バリアフリークイズ

バリアフリー設備についての知識を問うクイズを行いました。児童の皆様はバリアフリーについて事前学習をしていたようで、張り切ってクイズに参加してくれました！  
「これ知ってる！」という発言があったり、新しく知ったことはメモしたりする様子も見られました。

## 車椅子体験

段差や高いところ、低いところの不便さなど、車椅子ユーザーが日常で直面する困難を体験しました。



- ・段差を乗り越えることよりも、落ちていた物を拾う方が大変だった。しかし、それは車椅子を押してくれる人がいたからだと思う。助け合いの重要性を感じた。
- ・他人を押すことでさえ大変なのに、ましてや一人で車椅子に乗って移動するのは、もっと大変だと思う。



## 大本講師と児童の交流も!

### 大本講師から児童へ

戸を開けてあげるとか、(ものを)拾ってあげるとか、みんなができることをすることで、もっともっとバリアフリーになるんじゃないかなと思う。助け合いの心がバリアフリーだと思うので、みんな助け合って生きていきましょう。



多くの児童が手を挙げており、終了後も個別に質問するなど、講師の話に興味を持っていました。

### 質問コーナー

Q1. 大本さんの嫌いな季節は？

A1. 圧倒的に梅雨。傘を差しながら車椅子を押すことは大変。

Q2. 車椅子に乗っていて困ったことは？

A2. 行きたいお店に行けない。エレベーターがなく、階段でしかいけないお店も世の中にはある。そんなときは、友人におつかいをお願いしたり、お店の人に相談したりしている。

Q3. 家の中でも車椅子？

A3. もちろん。家にもバリアフリー設備はある。玄関にスロープがあったり、トイレが広かったり。

Q4. 車は運転できる？

A4. できる。足ではなく、手でアクセル・ブレーキ操作を行う。

## エレベーター付きリムジンバスの体験・見学も行いました！

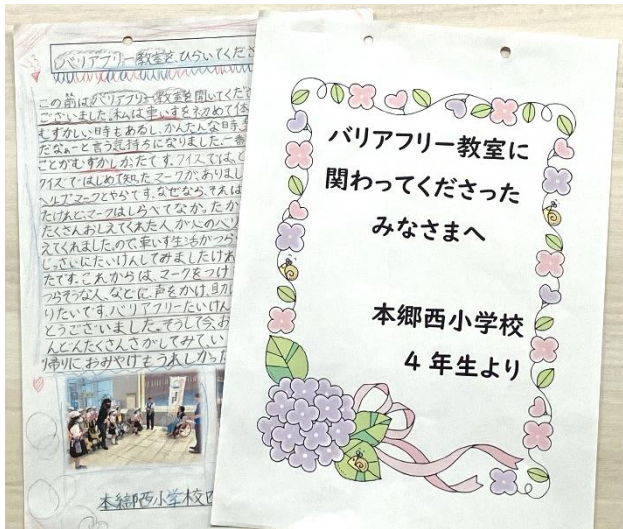
### エレベーター付きリムジンバスとは

車椅子に乗った状態で乗り込むことのできるバス。トランクスペースに設置されたエレベーターに乗り込み、客室まで上昇する。今年5月に中国地方で初導入された。





# 児童の皆さんからお礼のお手紙をいただきました！



## 新しく知ったこと

- ・木のだんさをこえるときは一人ではむずかしいことやしんどいことがぼくは、とっても分かりました。
- ・大本先生が、一番くやしいことは行きたいお店があっても行けないと言っていてぼくも、そうだったらとってもつらいと思いました。
- ・(フラッシュライトについて)耳のふじゆうな人は、サイレンの音とかがきこえないから光でしめしていることが分かった

- ・車いすに乗っている人は上の物と下の物がとれないとわかりました。
- ・ヘルプマークや耳マークを初めて知りました。
- ・ゆうどうブロックに物をおいてはいけなことが分かりました。
- ・バスにエレベーターをつけたことを初めて知りました。
- ・心のバリアフリーという言葉を知りました。



## これからに生かすこと

- ・もしえんぴつを落としていたら、拾ってあげるのではなく、やさしく声をかけたりお願いされたら拾ってあげようと思います。
- ・他にもどんな工夫で出来ているバリアフリーがあるのか知りたいです。
- ・バリアフリーのものはていねいにあつかいます。
- ・こまっている人がいると、こえをかけるのが少しはずかしいけど、たすけてあげたいです。たすけられるようになりたいです。

